

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290400294		
法人名	株式会社 建装		
事業所名	グループホームさらさの家 1ユニット		
所在地	島根県出雲市東福町190番地2		
自己評価作成日	令和 2 年 10 月 9 日	評価結果市町村受理日	令和2年11月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/32/">http://www.kai gokensaku.jp/32/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社ケーエスシー		
所在地	島根県松江市黒田町40番地8		
訪問調査日	令和 2 年 10 月 27 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設周囲は田畑に囲まれ自然の景色を眺められる。敷地内の農園は、地域の方に開放し、季節の野菜が収穫できます。利用者様と一緒に、玉ねぎ・さつまいもなどの苗植えや収穫を楽しみ、食事は、手作りで旬の野菜が食卓に上る事も多い。施設理念「こちよくゆったりとあなたらしく」に沿ったケアを目指し、利用者様と協同で家事全般を行い、食べたい物のメニューから考え皆で作る昼食会や夕食会などもある。SNSや広報誌を活用し情報を、地域の方、ご家族様、求職者等に事業所の特色を発信。新型コロナウイルス感染症の影響で地域ボランティアとの交流は自粛中だが、ご家族様の面会には極力応じている。またオンライン面会も可能。職員の資質向上に向けWeb研修を導入。職員の健康管理としてドリンクを無償提供し、永年勤続賞の設立など職場環境の改善、働く意欲の向上に努めている。

「こちよくゆったりとあなたらしく」の理念は共有され本人の尊厳を尊重するケアが実践されている。四季の景色が眺められ田畑に囲まれた自然環境に施設は立地し、地域の方に開放された敷地内農園は、季節の野菜を収穫し、玉ねぎやさつまいも等の苗植えは利用者も加わり収穫の楽しさを共有し、食事は手作りで味わう旬の収穫野菜の食感を楽しんでいる。他方、皆で食べたいメニューの昼食会や夕食会も行い、家事は利用者と一緒に実践している。事業所情報はSNSや広報誌により地域の方、ご家族、求職者等に発信され、コロナ禍の影響で地域ボランティアとの交流は自粛し、家族とはオンライン面会を工夫し、職員の資質向上はWEB研修を採り入れ、無償ドリンクは健康管理に配慮して提供され、永年勤続者表彰も定める等職場環境の改善や働く意欲の向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/>	2. 家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/>	3. 家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	4. ほとんど掴んでいない			<input type="radio"/>	4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	2. 数日に1回程度ある			<input type="radio"/>	2. 数日に1回程度
		<input type="radio"/>	3. たまにある			<input type="radio"/>	3. たまに
		<input type="radio"/>	4. ほとんどない			<input type="radio"/>	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている
		<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/>	2. 少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/>	3. あまり増えていない
		<input type="radio"/>	4. ほとんどいない			<input type="radio"/>	4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/>	2. 職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/>	3. 職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4. ほとんどいない			<input type="radio"/>	4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4. ほとんどいない			<input type="radio"/>	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/>	2. 家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/>	3. 家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4. ほとんどいない			<input type="radio"/>	4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が			<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4. ほとんどいない			<input type="radio"/>	4. ほとんどできていない

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を壁や事務所に掲示し、常に意識できる環境を整え、近年は「新年の抱負」を職員は提出し、内容は理念を意識している。今年度の目標は「ゆったりと」の基に毎朝15分間利用者様とお茶を飲み会話の時間を設けた。	事務所や壁に掲示された理念は常に意識づけられ、職員会議等や最近職員提出の「新年の抱負」で共有され、利用者もスタッフとゆったりとした時間を持つために今年度は毎朝15分間ティタイムの目標を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様・職員が、近隣店からお弁当を注文する日を設けた。また、生協の活用を開始。事業所で使用する卵や醤油は地元産にしている。職員のユニフォームも地域の印刷会社を選び、地域への貢献を意識した。	地域交流は、コロナ禍の影響で自粛し、地域のごみ拾い活動等や近隣の店に弁当を注文し、卵や醤油は地元産にする等又、地域印刷業者に制服のマーク刷りをして地域貢献も考え地域との繋がりに工夫をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	概ね2ヵ月毎に地域に広報誌を回覧。主に事業所の活動や取り組み内容を掲載している。今年度は、クリーン活動を実施。事業所周辺のゴミ拾いを行った。SNSを活用し継続した情報の発信に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヵ月に1度開催。利用状況や活動、研修報告、意見交換の場になっている。今年度は、新型コロナウイルス感染症に伴い書面会議へ変更していた。人数の調整、感染対策を取った上で、通常開催を目指す。	2ヶ月に1度開催の運営推進会議は和気あいあいの中で話し合われ提案も行われるが、コロナ禍の影響で今年度は書面会議に変更された。参加人数を調整し感染対策をとって通常通りの開催を今後は目指している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	マスク不足時に、市からマスクの支給があり感謝している。他の衛生用品の入手が逼迫した上に、価格も高騰しサービス提供に支障を来す恐れもあった。困り事は、すぐに連絡し相談している。	コロナウイルス感染症予防のマスクは市からの支給があった。他方では衛生用品の入手が価格高騰もあり困難な状況下でケアに支障が出ないか懸念されていたが、困り事は即相談する連携が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を3ヵ月毎に開催している。日々のケアを振り返る機会となった。改めて玄関やホール、非常口の施錠時間の確認を行い意見交換の場を設けた。不適切ケアについてはWeb研修を取り入れた。委員会では、「センサーについて」も考えた。	身体拘束の方針は書面化されケア実践の原点となり、3ヵ月毎開催の身体拘束委員会は拘束は駄目との共通認識を図り、センサーについても検討を行い、抑圧されないで安全に過ごせる施錠の工夫の意見交換も行い、ケアを日々振り返って不適切ケアのWeb研修を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会では、職員のストレスチェックを行い、自身のストレス管理の重要性を伝えた。虐待についての研修も年度内に実施予定。自分の行動や態度、言葉遣いが適切であるかを見直し、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在の入居者様には、制度を必要としている方はいないが、成年後見制度について知識を持つ必要がある。年度内にWeb研修を活用し、管理職を中心に職員誰もが成年後見制度について理解を深めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新型コロナウイルス感染症の影響もあり、契約に要する時間を短縮し、事前説明を経て本契約としている。重要箇所は、説明の上、付箋紙を付けるなどの工夫をした。ご理解頂けたか、不安や疑問の有無を確認した。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	令和元年度は、特例適応で外部評価が免除されたため、独自で「ご家族様アンケート」を実施し利用満足度調査を行った。ご要望やご意見を運営に反映している。玄関には苦情・相談用紙を設置している。	玄関には苦情相談用紙が置かれている。今年度は家族アンケートを実施し、ご家族が求める外出やゆったりとした時間が欲しい等を知る事のできた独自の利用者満足度調査は朝のティタイムに繋がり運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員の面談を実施。職員から面談の要望があれば随時対応している。要望があれば、管理者から法人へ伝えている。リーダー・サブリーダーを中心にチームで課題解決へ向けて取組むよう促している。	要望等を聞く職員面談は定期的な又随時行い、管理者は法人に伝えている。業務改善に洗濯機の全動化を行い、リーダー等は課題解決をチームで取組み上部に反映するシステムを築いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	特定処遇改善加算を算定。評価シートや面談を経て、資格・能力に応じたグループ分けをしている。資格・経験に応じた昇給制度を設け、給与水準の向上に努めた。有休取得も推奨している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルスの流行で集合研修の中止が相次いだ。そのためWeb研修を導入。あらゆる分野の内容から選べる。また、職員が交替で講師役を務め、定期的に利用者様が患う疾患について講座を開いた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域向け行事の祭りや縁側喫茶では、近隣の事業所へも案内し、お招きしていた。現在は、行事の自粛や、研修の中止などで交流する機会は減った。他事業所での取り組みなど、電話で聞くこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限り入所前にご本人やご家族とお話する時間を設けている。また、ご自宅に伺い環境や習慣、ご本人の思いに耳を傾ける機会も大切にしている。ご本人の不安に気付いた時は、寄り添い不安解消に繋げた。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在の入居者様は併設の小規模多機能ホームからの移行である。在宅生活での介護負担や入所に至るまでの不安や要望等の把握がし易い。他のサービスからの移行時には、初回相談等に時間をとり対応した。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族様の要望にズレがないか、本人の思いを代弁する事も大切にしている。管理者を中心にアセスメントを行い、その時必要なサービスを見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様を人生の先輩として尊敬し、季節行事や昔ながらの風習を通して共に支えあっている。日常生活においても家事全般を協同で行うよう心掛け、持ちつ持たれつの関係づくりに取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご家族様にお便りを送り、体調の変化や往診の報告、薬の変更等の医療面、日々の様子をお知らせした。又活動中の写真を添付し、ご家族様の安心感に繋げた。行事の案内、面会制限などこまめに知らせた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自分たちだけで支えるのではなく、ご家族様の協力を得ながら、馴染みの美容院の利用や、お盆や彼岸などに自宅へ仏壇を拝みに帰るなど提案した。ご主人様、奥様の入院中は、面会できるよう段取りしている。	ご家族の協力を得て、馴染みの美容院や本人の暮らした地元にお盆や彼岸の時には仏壇拝み等に外出する提案を行い、地域との関係が継続されるよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の入退所に応じて、良好な関係が保てるよう座席を考えている。活動内容により、皆が輪になり過ごす時間もある。難聴や認知症の進行により、話が上手く伝わらない時は、職員が間に入り橋渡している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時に、必ず思い出アルバムを渡している。退所された利用者様がお亡くなりなられた時は、お悔やみに伺う事もある。ご希望があれば、遺影用の写真をお渡した。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様やご家族から以前の生活や現在の様子、思いやご希望など伺う時間を設けている。暮らしの中で、ご本人の思いが分かれば記録に残し、ご家族様にもお伝えしている。また、職員間でも共有に努めている	利用者ご家族の思い等の意向は、アセスメントやコミュニケーションを採り入れ、言葉が出にくい方や耳の遠い方には筆談により、意向の把握に努めている。意向は記録し職員に共有され、ご家族にも伝えられている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書の情報を基に、会話やご家族の面会時に改めてアセスメントし、生活歴や生活習慣、得意な事や関心のある事の聞き取りをして、職員各々が情報収集し、暮らしの中で活かせる場の提供に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活習慣を大切に、個々のペースに合わせて過ごして頂いている。朝のバイタルチェックを欠かさず行い、不安がある場合は再検している。役割を発揮して頂ける声掛けをして、出来る事に目を向けるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所時は環境になれる事を重視し、その後必要時又は3か月毎にカンファレンスをし、ケアプランの達成状況や変更が必要な時は、担当を中心に再アセスメントを行い新たなニーズを探りケアプランを見直している。	入所の時は環境への順応が優先され、以後は3ヶ月毎のカンファレンスにより又、そうでなくても変化があれば担当を中心とするアセスメントを行い、新たなニーズを検討しミニ講座でケアプランの見直しが提案されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細な事も記録に残せる様にメモや記録時間の確保に努め、大きな変化がある際は、申し送りや連絡ノートを活用し職員間で共有し又、担当が中心となりカンファレンスを行いケアや介護計画の見直しに繋げている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の協力を得一時帰宅の支援を行ない、送迎が困難な時はお手伝いし、地域の民生委員様との連携も継続している。本人の思いに応え毛染めなども支援した。誕生日を家族の手料理で祝う利用者様もいた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	福祉タクシーを利用し通院される方もいる。また、馴染みの理美容院を利用した。現在は、ボランティアの受け入れは自粛。農園の利用者様から獲れたての野菜を頂き、お茶口の漬物や煮物にした。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続を支援している。協力医の往診(月1~2回)を利用する方もいる。ご家族の通院介助負担は軽減でき、利用者様の体調変化に対応しやすい。受診の際は近況を記した報告書を主治医に渡した。	受診は、かかりつけ医に継続し、受診介助は家族と合意し、緊急時は施設が対応して、月一二次協力医往診は家族の介助等の負担を軽減し、本人の体調変化にも対応し、受診時は近況報告書を主治医に渡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタル、食事・水分の摂取量、排泄状況、睡眠状態等を踏まえ些細な変化や異変を報告・相談している。入浴に合わせ皮膚の状態を診て貰い処置する。早めの対応でかかりつけ医への報告や受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、その日のうちに情報提供書を渡している。また、入院中は定期的に相談員と連絡を取り、状況の把握に努めた。退院前には、病院関係者、家族を交えたカンファレンスに同席し施設の意向を伝えると共に、受け入れ態勢を整えた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時点で、看取りについて事前確認させて頂いている。また、状態の変化に応じ、その都度、終末期について話し合いの場を設けている。事業所として、対応の可否をご理解頂き、看取りの意向があれば、話し合いながら主治医と連携し対応する。	看取りの経験があり、サービス提供開始時に看取りの意向は事前確認書で把握している。終末期のケアは状態の変化に対応しその都度、家族協力医等の協力が得られる相談をして、看取りの手引きを作成し、事業所が対応し得る最大のケアを検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は概ね2年毎に普通救命講習を受講。急変時に備え、待機など連絡体制の強化や初動対応(転倒・嘔吐)を示した。また、アクションカードの読み合わせなど、事故発生時の対応ができるように訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災時の避難訓練では、日中・夜間の想定で避難訓練を実施。新型コロナウイルス感染症の影響で消防署の立ち合いは中止。水害想定訓練では、一時避難所まで移動するなど、防災意識を高めている。	年2回火災避難訓練時の消防署立会はコロナ禍でなかった。避難誘導職員を決め避難経路を確認し、夜間は19時に火災を想定し行い、水害時訓練は決めてある避難所へ車で移動し、非常用食品等は備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であることを意識している。難聴のため伝わりにく時は、あいづちなどのリアクションを大きくし、視覚からも伝わるようにジェスチャーで対応。マスクを着用する時間が増え、目元を意識し笑顔を中心掛けている。	適切な言葉使いや不適切な声掛けは研修で振り返り、チェックリストを使い不適切ケアの防止に努め、人生の先輩を意識して難聴等の方にはアプローチ対応を工夫して利用者の尊厳を尊重している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	口頭だけでなくジェスチャーや筆談でも伝える。飲み物の種類を増やし、その日の気分で選べる様工夫し、何かをする時は～して頂けますか？とか～してもいいですか？と選択できるよう声掛けし、同意を得ている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様、一人ひとりのペースに合わせ居室で過ごして頂いている。転倒の心配がある利用者様には、好きな時に好きなところに行くことができるよう付き添いしている。起床時間や就寝時間も、その方の習慣を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えは、本人が選ぶようにしている。起床時の整髪・髭剃り、食後の口腔ケア、衣類が汚れた際は、その都度、更衣している。馴染みの理美容院を利用しパーマやカラーに行く方、化粧をされている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話から食べたい物を聞き取り、旬の食材、季節を感じられる献立にするなど楽しめる工夫をした。食材切りや副食の盛り付け、お茶注ぎやテーブル拭き等を手伝ってもらい、協同で食事作りをしている。	食事は利用者の声を聞き取り、旬の食材を活かし季節感ある献立を工夫し、ご利用者は力を活かして調理や盛り付け等の下準備は職員と一緒にしない、食事を楽しむ支援が行なわれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調に合わせ、食事量・必要な方には水分量も、記録に残し、体調の変化に気付くよう注意している。摂取量の少ない方には、声掛けし摂取を促したり、好みの飲み物に、トロミをつけたり、ゼリーで代用し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	昼食前に口腔体操を中心掛け、毎食後の口腔ケアを行っている。利用者様に合わせ、磨き直しや、義歯洗浄などお手伝いした。義歯が合わず、食事に支障がある場合は、歯科受診につないでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要に応じ排泄表を利用しトイレ誘導し、周囲に配慮し耳元で声かけしている。羞恥心を感じないよう排泄中は可能な限りその場を離れ、コールの使用や時間を見計らい支援する日中はトイレへ誘導をする。	排泄はチェック表によりトイレに時間誘導をする個別の支援を行ない、誘導はさりげなく声を掛け、羞恥心に配慮して見守り、夜間はポータブル使用に誘導し、リハパンやパット類等の使用も本人に合わせている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を確認し、必要な方には排便コントロールを行っている。下剤だけに頼らず、牛乳・ヨーグルト・野菜ジュースなど提供。また、適度な運動も意識し、日中に歩行練習や体操など活動も大切にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回を目安に入浴して頂き、入浴剤でリラックス効果を高め、会話が弾み歌を唄われる方もいる。同性介助を希望に応じている。気乗りしない利用者様には、間隔を調整し、家族の協力を得て負担を軽減している。	入浴は週3回程度生活習慣日や好みの時間に行い、入浴剤はリラックス気分を高め会話も弾み歌唱される方もある。介助希望には応じ、入浴を拒む方は午前又は午後に入浴し、ご家族の協力も得て負担が軽減されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の照明、温度、湿度の環境を整えている。寝具は週1回交換し清潔を保っている。利用者様の中には、テレビやラジオを聞きながら眠りにつかれ、入眠の妨げにならないよう電源をオフにする事もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の処方薬情報はファイリングし共有できる。看護師が薬のセット、毎食前チェックを二重で行い、飲み忘れ防止に努めている。薬の変更は、連絡ノートで周知する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で、食事の準備や片付け、洗濯干しや洗濯たたみ、裁縫やゴミ箱作りなど日課となる方もいる。季節に合った作品を作り、施設内の廊下やホールに飾った。毎月イベントを企画して、楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	新型コロナウィルス流行後は、買い物などの日常的な外出は自粛中。市内に感染者が確認されていない時は、一時帰宅やドライブ、地元ファミレスへ出掛けた。敬老週間には穴道湖自然観ゴビウスへ家族の協力も得て外出できた。	誕生日は外食支援を行っていたが、コロナ禍の影響で日常の買物等の外出は自粛されできなかった。ホーム内での食事等を楽しむ企画をした。コロナ感染対策をしながら、一時帰宅、地元のレストラン、木綿街道、十六島、ゴビウス自然館等にドライブする外出など家族の協力も得て支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了承を得て、高額ではないが財布を所持し不安の解消につなげた。ご家族から預かり金を頂き、必要な消耗品や外出支援費に使わせて頂いている。預かり金台帳を記入し、毎月ご報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	新型コロナウイルス感染症予防のため面会制限を実施、オンライン面会を活用。家族と本人が会話できるよう付き添いし橋渡した。家族から届いた往復はがきに返事を書いて返信した。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや居室にある湿度・温度計を確認し温度調節している。冬期は加湿器を設置し湿度にも注意している。現在、新型コロナウイルス感染予防対策として手洗い・マスク・2時間毎の換気、椅子や施設内の手すりの消毒で感染予防に努めている。	共用空間は、居心地よく安心感のある場所として湿度温度計により温度調整を行い、冬場は加湿器で湿度管理を行って、今はコロナ禍の感染予防対策で手洗い、マスク着用、2時間置きの換気や施設内の消毒等に注意を払い暮らしの場を整える支援に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関の長椅子や建物東側にはベンチがあり利用者様、職員が一緒にくつろげる。共有スペースの座席は、気の合う者や馴染みの関係に考慮した。また、孤立しないよう活動中は、一緒に参加できる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の中には、自宅の部屋のように家具を配置し、必要な物や馴染みの物を持参して頂き、住み慣れた環境に近づけるように努めている。適度な換気、季節の変わり目には、カーテンも洗濯している。	自宅の部屋のように馴染みのものが活かされ持参されて、その人らしく暮らせる部屋の工夫に努め又、換気や季節の変わり目には注意が払われご利用者は安らぎを得ている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室まで移動する同線の手すりを使い、立位訓練をしたり施設内を歩けるよう障害物がないよう配慮している。タオルや口腔ケア用品など定位置に置き利用者様が困らないようにした。ドアやトイレに目印で工夫した。		